

手話通訳者養成講座学習指導における設定（前提）

1. 学習環境における基本情報

- ・場面：厚生労働省「手話通訳者養成講座Ⅰコース」前半
- ・時間：90分
- ・学習者：厚生労働省「手話奉仕員養成講座基礎課程」修了者15名
- ・講師：2名体制（ろう講師、きこえる講師）

2. 前提条件

- ・基礎コース上がりで手話技能は基本的な会話ができるが、討論レベルには至っていない
- ・ろう者に対する知識は手話奉仕員養成講座2年間のうち3項目6時間を座学で学習
- ・初対面のろう者が表出する手話は字幕に依存
- ・使用手話は日本手話
- ・本講義におけるろう講師の役割：全体進行、自身の経験を伝授
- ・本講義におけるきこえる講師の役割：ろう講師の指導補助、受講生への音声によるサポート

3. 学習指導案と資料等：別紙

4. 手話教育場面における知能把握

山岸ら(2010),『英語教育学体系 第11巻 英語授業デザイン』を参考に、手話教育に適した知能を設定し、項目と内容を以下に示す。なお、()は文献に掲載されているものではなく、手話通訳者養成を考慮して小生が提案した項目である。

- ・言語的知能：単語、文法などの記憶
- ・論理的知能：文法解析による文章理解、文脈を意識した意味理解
- ・音楽的知能：リズムの活用、手話とメロディーの関連付け
- ・(学問)的知能：ろう者学を主に、手話学、手話言語学、などの学問の理解、自己探求
- ・(翻訳)的知能：言語間をオフラインで変換・要約
- ・(通訳)的知能：言語間をオンラインで変換・要約
- ・対人的知能：他者の意図や希望を読み取ってうまく対人関係を築く能力
- ・内省的知能：手話（手話通訳）学習の目的に関する自己認識、振り返り

作成者：繁益陽介（手話教育コース）

作成日：平成27年4月22日

提供：ろう者学教育コンテンツ開発取組